

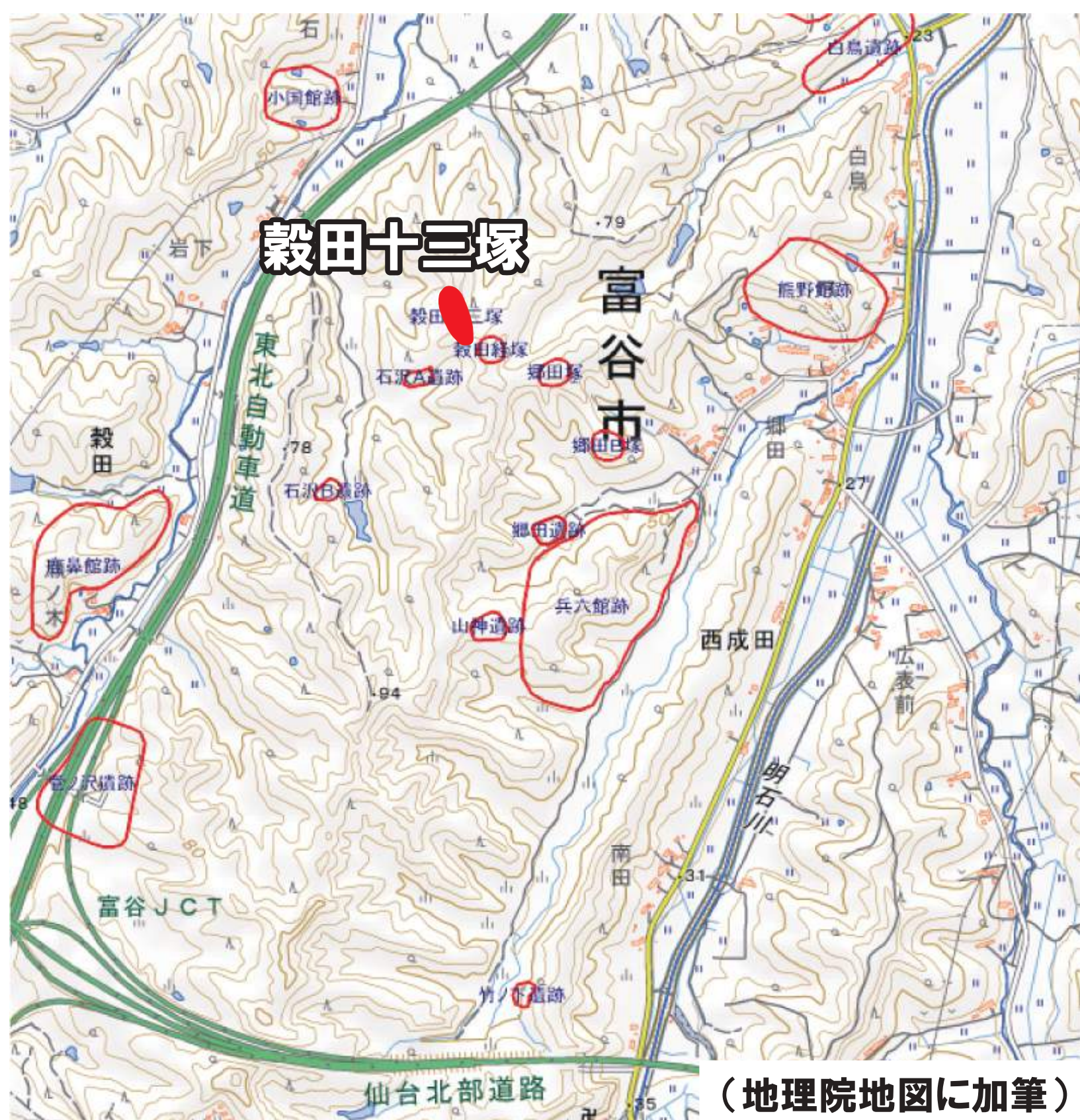
仙台北部道路

富谷市成田地区

遺跡遠景（北西から）

整然と並ぶ13基の塚

⑦穀田十三塚（富谷市穀田）



富谷市中央部の丘陵にある江戸時代ころの塚です。

令和6年度に、遺跡の全容を明らかにするための発掘調査が、富谷市教育委員会により行われました。

調査の結果、塚は丘陵上に約2m間隔で一列に並んでおり、削った土を盛ることで行われていることがわかりました。

13基の塚すべてが^{ぜん ぞん}残存していることは全国的に珍しく、調査事例も少ないことから貴重な成果となりました。



▲遺跡近景（北西から）

13基の塚は、幅の狭い丘陵尾根の南北約65mの範囲にありました。東西約3.2mのものが多くありますが、3・4・7・13号塚は東西約4.2mあり、ほかの塚と比べてやや大きいことがわかりました。



▲塚の断面（南から）

塚は地面を削って平らに整形した後、何層にも土を盛ることによってつくられています。

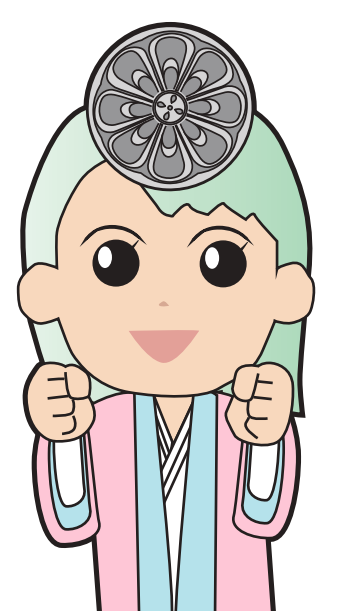
Rengemon Chat



ちょうさいんさん

十三塚ってなんなのか教えて！

十三塚とは、峠道や村境などに、数個または十数個の塚が並んでいるものです。日本各地にあり、中世から江戸時代にかけてつくられたとみられますが、詳しいことはよくわかりません。13基すべてが残っていることは珍しいです。



れんげもんちゃん

協力：富谷市教育委員会